



▲ われら大樹寺武将隊 いざ出陣
(大樹寺小 総門前にて)

かいほつ

73号

學 惠田小
五年 南裕太

岡崎市現職研修委員会
特別支援教育部会
平成27年12月1日発行



特別支援学級担当の経験から

大門小学校長

武田 正道

私は、中学校特別支援学級の担任を長く経験してきました。今の立場になり、「その経験を生かすことができれば」と、強く思っています。反省を含めた経験の一端を紹介します。

子どもは、正直である。

子どもは、いくら時間をかけ教師が準備をしていっても、授業や教師の指示に乗ってこないことがあります。子どもは、正直です。嘘はつきません。つまらなければ、やりたくなければ、授業に参加しませんし、教師の指示を聞きません。子どもが悪いわけではありません。「教師の準備不足であるし、子どもも理解がいたらない」と考えます。いろいろな本を読んでも、なかなかその通りにはなりません。でも、教師が七転八倒をしていると、突然、子どもは教師のすぐ近くにいる、授業準備に興味を示してくれます。子どもは、「しよがない、近くにいろか」という気分になったのでしょうか。そうではありません。学校中で一番思っている大人が担任だからです。そのような関係になると、後は結構順調です。山の頂上はすぐそこにあり、あと数メートルで苦労が報われる下り坂になります。

子どもに良かれと支援をする。逆に、負の反応を引き出すことがある。

子どもの反応をしっかりと見ず、教師の願いや親切心や丁寧さで対応をしていると、逆に、依存度が高くなり、元に戻ってしまった状態になることがあります。離席の回数が増えたり、要求に対する我慢力の低下が見られたりします。これは、子どもを見る目の未熟さ(言いすぎでした。愛情の深さ)が、そうさせると考えます。教師の関わり、支援で、子どもがどう変化しているか、しっかりとつかまえる必要があります。すると、教師の心のコントロールが、重要になってきます。

反省は山ほどあります。その反省が、私の原動力になっています。

教師を保護者の方と置き換えても、通じるところがあるように思います。ご家庭と教師の一致した歩調で、子どもの成長は順調になります。個別の教育支援計画・個別の指導計画が、その助けになります。

子どもと親の集い ブロック交流会

ブロックこうりゅうかいのおもいで

六ツ美・六ツ美北ブロック

六ツ美南部小 二年 早川 拓魅

ブロックこうりゅうかいで、たくさんゲームをしました。ボウリングがたのしかったです。ピンをたおすのがむずかしかったです。ちゅうがくせいのみずふうせんをくれました。うれしかったです。おべんとうをおかあさんとたべました。ぜんぶたべきれませんでした。しんぶんのうえで、じゃんけんをしました。ぼくは、まけたけどたのしかったです。キーホルダーをつくりました。ぼくは、チョコレートのをかきました。とてもたのしかったです。



▲ 新聞紙の上で、じゃんけんぽん!



▲ みんなでにぎやかフィッシング! さて、何匹釣れたかな?

楽しかったブロック交流会

新香山・常磐ブロック

常磐中 二年 河東 優香

九月三十日、ブロック交流会がありました。場所は私の通う常磐中学校でした。

最初に開会式がありました。私たちが司会をやることになったのでとても緊張したけど、はきはきと大きい声でできてよかったです。そして、私は選手宣誓をやりました。みんなの前でも誓いを言えたのでよかったですと思います。私が交流会の中で一番楽しかったなと思うところはなにかよしオリピックです。どの学校のゲームも楽しかったです。特に、奥殿小学校の親子でフィッシングが楽しかったです。お母さんと協力して楽しく魚をとることができてよかったです。私たちのゲームはゴールキックでした。説明も運営も自分たちでできたのでよかったです。友達やお母さんと協力して楽しくやれてよかったです。

来年は最後なので、楽しい交流にしたいなと思います。

中学校施設見学

春日台職業訓練校見学

葵中 教諭 博多 圭子

七月二十七日、四十名を超える参加者とともに、春日井市にある春日台職業訓練校の見学に行ってきました。職員の方の案内を受け、作業実習による技能訓練や寮生活の様子などを見学しました。

訓練科目は、機械科、縫製科、木工科、陶磁器科、紙器製造科の五科があり、それぞれの科で、就職し社会人として生活していくために必要な事柄を学んでいる様子を見ることができました。まず印象に残ったのは、大きな声の元気なよい挨拶です。学校見学に参加するとの学校でも言われることが、「挨拶ができること」です。就職をするにあたり、本当に大事なことのだと、実感することができました。

また、作業学習に対する集中です。中学生では、楽しいことや好きなことには集中することができても、苦手な作業や学習としての作業にはなかなか集中を続けることができません。細部にわたり、丁寧な作業を続けることができることも、仕事をすることで大切な力なのだと感じました。

職場体験

たくさん学んだ職場体験

東海中 二年 鈴木 佑佳

私は、十月七日から三日間、職場体験で、「セリオ美容店」に行きました。最初に班員の髪の毛を洗う仕事をしました。人の髪の毛を洗うのは、普段、自分の髪の毛の洗い方とやり方が違うので、とても難しかったです。飲み物出しや雑誌出しは、お客さんの前に出るのでとても緊張しました。でも、三日目には初めの日より上手にできるようになり、お客さんも喜んでくれたのでとてもうれしかったです。

この三日間で、人との接し方や仕事の楽しさなど、たくさんのお話を教えていただきました。職場体験に行くことができて、本当によかったと思います。今回学んだことを、これからの学校生活にも生かしていきたいと思えます。



▲ 商品を探しています

岡崎ライオンズクラブ 社会見学



楽しかった社会見学

竜美丘小 六年 斉藤 光

名古屋港水ぞくかんに入ったとき、元氣よく泳ぐイルカを見ました。ペルギーも元氣よく泳いでいました。

イルカショーの練習をしているイルカを見て、ドキドキしました。本物のイルカを初めて見たので、息が止まるくらいドキドキしました。

次に、ピラニアがいる水そうに行きました。ピラニアだけではなく、肉食魚もいました。今まで歯がとがっている魚を見ることがなかったので、本当におどろきました。

その次に、いろいろな魚がいる水そうに行きました。小さなサメや、ランドセルくらいの大きさの赤い魚、細くてうすいねずみ色の魚などいました。バスの中でマイクを使って自己紹介するのは初めてだったので、少し恥ずかしかったです。

また今度、私の家族と名古屋港水ぞくかんへ行きたいと思います。招待してくれて、ありがとうございました。

思い出がたくさんの社会見学

矢作西小 六年 神谷 真由

わたしは、九月二十五日、みんなと三号車のバスで名古屋港水族館に行きました。

わたしがよかったのは、イワシのトルネードとイルカのショーです。

イワシがきらきら光っていて、三匹も泳いでいて泳いでいてきれいでした。イルカのショーでは、イルカが人といっしょに泳いでいるところがすごかったです。わたしもイルカの上に乗れたかったです。水そうで泳いでいるイルカがすぐ近くまで来てくれたのもうれしかったです。

ライオンズクラブのみなさんのおかげで水族館に行くことができました。思い出がたくさんでできました。ありがとうございました。



▲ 「いるかさん、おいで～」

学級紹介

くすのき学級スタート

岩津小 教諭 空中 健一

くすのき学級は、岩津小学校に本年度開設された肢体不自由特別支援学級です。はなのき学級の教室の半分を作り直して、一年生一名でスタートしました。

移動に車椅子や歩行器は欠かせませんが、何事にもやる気満々の子どもです。五月の運動会には、低学年の演技に車椅子で参加をしました。車椅子特有の背中にこもる熱や、慣れない土の上の移動など、困難もたくさんありました。でも、諦めることなく、最後までやりきることができました。応援してくれる多くの子どもたちの温かい目が大きな支えとなりました。一年三組との交流を図りながら、今日も精いっぱいがんばっています。



▲ 昇降機を使って移動中です

かいほつ塾

切り替え上手なゴリラ

岡崎小 教諭 川原場 仁子

自分の思いをうまく言えなかったり、相手の思いをくみ取ることがうまくできなかったりして、トラブルにつながってしまうことがあります。このような、人との関係や、もつれやもめごとからくるストレスに対して適切に対処することができるようになるために、ソーシャルスキルを学ぶと効果的であるといわれています。次のようなことを聞いたので紹介します。

お互いを尊重するゴリラ

① ごめんねと謝る

② 理由を言う

③ 相手にラッキーな提案をする

切り替え言葉

① まあいいか

② 仕方がない

③ こんな日もあるさ

これらの言葉をつかえるようになることで、周囲と折り合いをつけるのに役立ちます。



参照：日本授業UD学会
第一回授業UDカレッジ

退職された先生より

「閑古錐」のひんぐ

前矢作南小 校長 山口 和雄

長い教職生活を、矢作南小学校で終えることができました。ここ数年は特別支援教育に携わらせていただいた縁でしょうか、今は「そよかせ相談室」で働かせていただいています。

この子には障がいがあるのではないかと考える親御さんは、とても心配されて部屋に入られません。この子は学校で本当にやっつけていけるのか、自分の子育てのせいではないかと、ピリピリしてみえる親御さんもいます。

最近になって「閑古錐」という禅語があることを知りました。長年使いこまれた古い錐のことです。刃が丸くなった錐は、穴を開ける道具としては、もう使い勝手は悪いかも知れません。しかし、真新しい錐のように、使い方を間違えて人を傷つけてしまうようなことはないでしょう。

いくら年老いても、今まで身に付けた経験や知恵を生かして、不安や心配を抱える人たちに助言できることが少しはあるのではないかと考えました。そんなどっしりした存在感のある存在でありたいと思っています。

思い出の「シャッチー」

前勇川小 教諭 山田 哲也

平成六年の「わかしやち国体」で使われたシャッチーが、「子どもと親の集い運動会」に登場してから、志願して中に入り続けました。

頭でっかちのシャッチーは、頭がとても重いうえに、しつぽがじやまで歩きにくく、視界は下の方だけ。中は蒸し暑くて、少し動いただけで汗だくになりました。それでも、なるべくオーバーアクションをこころがけたので、ずいぶん減量できました。

そんな大変なシャッチーを毎年かぶり続けたのは、子どもたちがとても喜んでくれたからです。休憩時間などに握手したり、一緒に写真撮影したりして、ちよつとしたアイドル気分でした。

今はもうアルバムでしか見られない、なつかしい思い出です。



▲ シャッチーくんとつながろう

夏季三教研修会

友達とつながる楽しさを

梅園小 教諭 市川 友美

七月三十一日に新城文化会館と勤労青少年ホームで開催されました。午前中は、西三河北部障がい者就業・生活支援センター主任就業支援担当の市井壽一先生の講演がありました。午後は第二分科会に参加しました。

音楽科の学習において、基本となるリズム感を養いながら、友達とつながる楽しさを味わう授業を目指して実践したときの子どものたのびや変化について提案してきました。参加された先生方にも、リズム遊びやバッテリーリズムなどを体験していただくことができました。



▲ 参加者とリズム打ちをする教師

授業力・教師力アップセミナー

「授業力・教師力アップセミナー」に参加して

夏山小 教諭 井上 清美

午前中の研修では、岡崎女子大学の白垣潤先生と大門小学校の武田正道先生から、子どもの捉え方や子どもも理解の重要さを学ぶことができました。

午後からの研修では、支援学級担任の先生方が、実際に使った教材や教具を紹介してくださり、大変勉強になりました。教材・教具の紹介だけでなく、開発するに至った経緯や、実際に使ったときの子どもの様子などについても教えてもらえました。子どもの側に立った教具の数々を見て、いつも「やりなさい」の一本調子である私の指導について大いに反省させられました。セミナーで学んだことを日頃の指導に生かしていこうと強く思いました。



▲ 教材・教具を紹介し合う参加者